



Kobe Shoin Women's University Repository

Title	追悼の辞
Author(s)	黒澤 一晃
Citation	研究紀要（SHOIN REVIEW）、第 27 号：i-ii
Issue Date	1985
Resource Type	Bulletin Paper / 紀要論文
Resource Version	
URL	
Right	
Additional Information	付録（写真資料）あり。

追 悼 の 辞

学長 黒 澤 一 晃

私どもの敬愛する花木正和先生には、昭和六十年六月二十八日逝去されました。まことに痛恨の極みであります。享年わずか六十歳でありました。

先生は、昭和二十三年京都大学文学部文学科をご卒業後、昭和二十四年九月より松蔭女子学院に奉職され逝去される日まで三十六年の長きにわたって、研究と学校行政の両面におけるそのご業績をつうじて学院の発展に献身されました。

先生は、本学『研究紀要』創刊号に、「アルベール・カミュにおける『l'absurde』の思想」と題する論稿を發表されて以来、その主要論文の大部分を本学『研究紀要』ならびに本学『文林』に寄稿されました。先生の学者としての主たる研究領域は、フランスの近代詩とりわけボードレール、ランボーを中心とするフランス象徴主義の詩人およびわが国の近代抒情詩人の研究でありましたが、とくに中原中也に関する研究業績は学会において高く評価されるものでありました。

先生は、松蔭高等学校校長を経て昭和三十八年以降は、同短期大学教授・大学教授を歴任されましたが、その間、松蔭女子学院理事・常務理事として学院の運営に当たられる一方、大学設置準備委員長として大学新設の中

心として活躍されました。大学発足とともに、学生部長・総務部長・教務部長等を兼務され、昭和五十一年四月より大学・短期大学副学長の要職につかれ、その任期満了の同五十七年四月からは、本学建学の精神の具現化の一環として設立された「キリスト教文化研究所」の初代所長に就任され、本学の発展はもとよりわが国における高等教育の発展のためにその情熱を傾けられたのであります。

この三十有余年の長きにわたって、先生は身をもって学者・教育者としての範を示されました。その人格の高潔、学識の深淵、教育に捧げる情熱は、学生・同僚教職員の等しく尊敬するところでありました。

先生のこのようなご功績に対して、昭和六十年七月二十三日、政府より正六位勲四等瑞宝章が遺贈されましたが、われわれもまた先生の生前の学問的ご功績を讃えとともに、先生のご貢献に対する感謝の念をこめて、謹んで本号を「花木正和先生追悼号」として故花木正和先生に捧げる次第であります。

（昭和六十一年一月二十日）

Rights were not granted to include this image in electronic media. Please refer to the printed journal.

花木正和先生近影